

2016年度 後期		リフレクションペーパー						
学科名	生物環境化学科							
科目名	無機化学Ⅱ							
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	後期			
必修・選択の別	選択							
担当者	岡 伸人							
授業の到達目標 (シラバスから)	1. 代表的なイオン結晶の構造と化学結合を説明できる。 2. イオン結晶の構造とイオン半径の相関関係について説明できる。 3. 簡単な分子の化学結合と格子エネルギーについて記述できる。 4. 金属と半金属、半導体の電気特性とバンド理論を説明できる。 5. 酸・塩基の定義と概念を説明できる。							
日程と内容	第1回(9月14日) 導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法、最密充填構造（1種類の原子） 第2回(9月21日) 2種類のイオン（原子）の充填と結晶構造その1 第3回(9月26日) 2種類のイオン（原子）の充填と結晶構造その2 第4回(10月12日) 3種類以上のイオン（原子）の充填と結晶構造 第5回(10月19日) 結晶構造の理論 / 半径比則 第6回(10月26日) イオン結合と格子エネルギー 第7回(11月2日) イオン結合と共有結合 第8回(11月9日) 化学結合と結晶構造 第9回(11月14日) ファーヤンス則 第10回(11月16日) 金属結合とエネルギーバンド、結合エネルギー 第11回(12月7日) 金属と半導体の電気伝導性 第12回(12月14日) 金属と半導体の熱伝導性 第13回(12月21日) 超伝導の基礎理論と応用 第14回(1月11日) 酸と塩基の定義 第15回(1月18日) 定期試験 第16回(1月24日) 総合演習と解説							
成績評価基準	定期試験	40%	実技	0%	臨時試験	40%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	20%		
	演習	0%	計	100%				
授業到達目標の達成度	予定していた項目は全て実施して、概ね達成できたと考えている。							
反省点	習熟度の低い学生の興味・関心を高め理解を促進させるために、講義と演習の両輪で進めていきたい。また無機化学は学ぶべき項目が多いため、自学自習が不可欠であり、来年度も必要な課題を課すなどの工夫をする。							
来年度の計画	現状のシラバス内容を踏襲するが、無機化学に対する学生の興味・関心を高めるために、簡単な実験を組み込む、などの工夫を充実させる。さらに講義についてのレポートを毎回課すことで、学生に予習・復習の習慣をつけさせ習熟度を高める。提出されたレポートを基に、理解が不十分な項目については講義の中でも重点的に復習する。							
授業評価アンケートに対するコメント	無機化学は学ぶ項目が多いため自学学習が不可欠であり、次年度もレポートを毎回課すことで、予習・復習が必要な項目を重点的に習熟できるように工夫する。また個別の質問対応へのポジティブなコメントもあった。来年度も引き続き、丁寧な説明を心がける。							
履修登録者数	69名	定期試験 受験者数	69名	合格者数	69名	合格率	100%	